

「大きく変貌した御南地域の今昔」

北区田中 長瀬日出明

参考にさせていただいた資料を紹介し、私なりの浅はかな知識でお話を纏めさせて頂きました。

「今村史」 ほか (村史は昭和30年8月今村発行)

「池葉須藤樹先生がご研究の資料」 (田中ご在住。参考利用了解済み)

「佐藤芳範さんが収集された郷土資料」 (久米で活躍中に近年ご逝去)

「今地区土地区画整理組合の記念誌」 (平成元年12月組合発行)

さて、大きく変貌したこの地区の故事来歴を知ろうとするために、次のように便宜四つに分けて整理してお話ししようかと思えます。

- 1 遠い過去の旧「今村」と「白石村」(若干の周囲を含む)が、現代に至った間の主たる変遷を辿ってみる
- 2 発展的な都市型の地域を目指して取り組んだ世紀の大事業、つまり全国的にも稀に見る組合立の大区画整理事業を完遂させたことを大きく評価したい
- 3 今村の土質が藺草栽培に適していることに着目して、米・麦栽培に加えて昭和40年代中頃まで生産を継続し、その途中の14・5年頃には藺草を原料とした日用品を考案・販売し、まさに日本の藺草王国を作り上げた実績を振り返りたい
- 4 幾千年前の古代から岡山の地は、将来大規模に干拓可能な土地として存在していたことが後世に大変幸せであったこと

「今村」「白石村」にかかわる概略経緯について

かつての今村は「いまそん」と呼んだ。それはすでに字（あざな）の「いまむら」と呼ぶ字があるからである。明治22年に町村制が実施された際に、各村を合併して「いまそん」として、前からの各村を大字とした。つまり既存の今村、上中野、下中野、中山道、西長瀬、田中、辰巳、平田の8つを合わせて新今村とした。

同年に白石、久米、花尻、今保が合併して白石村となった。

『1632年（寛永9年）に池田光正が鳥取から岡山藩主となる。その時代に字今村ほか4か村が（今の）平田地区を開墾した。この土地を五箇村新田と称した。平田は後の明治7年に「平田村」として誕生した。』

その後70年も下った1721年の「備陽記」によれば「今村」の戸数は403戸で人口は2149人であった。（田中は55戸・本籍数は90戸、人口283人）でその後もあまり変わっていなかった。

『岡山市に合併した昭和27年の統計では今村713戸、人口3321人、白石の戸数361戸、人口1893人であった。今村の人口の大幅な増加は、今村史によれば戦災・終戦時から急速に増加したためと記されている。』

- ・1333年（正慶2年）今村の地に開拓者によって**八幡宮**創建
- ・1356年（延文年間）田中に弥久末親基が城を創建（田中の故犬飼秀哉氏）
- ・1401年（応永8年）中仙道松の島へ「**白鬚宮**」を創建

氏子は中仙道、西長瀬、田中、田中野田、辰巳、平田

- ・1580年（天正8年）今村八幡宮は岡山城内の馬場にあった「三社明神」と合祭し、「**今村宮**」と改められる。（現在も旧市内に氏子が多い）

- ・ 1760年（宝暦10年）白石橋を高欄付きで新設
- ・ 1891年（明治24年）山陽線（当時山陽鉄道といった）が開通。
- ・ 1892年～から翌年（明治26年）大雨による旭川大氾濫・大凶作の上、
赤痢の流行で県下の死者3千900余患者1万数千人であった。
この年**今村尋常小学校が開設された。在来の白石小学校についても白石尋常小学校に改称し開設された**
- ・ 1900年（明治33年）所属していた御野郡は津高郡合併して御津郡となる
- ・ 1919年（大正8年）今村・上中野に電灯が付き、翌年には全村に普及した。
- ・ 1931年（昭和6年）満州事変はじまり、**JOKK**が開局
- ・ 1932年（昭和7年）多発する伝染病の蔓延を止めるため、行政上の幾多
の困難を克服して**上水道が完成**、伝染病は収束した
- ・ 1837年（昭和12年）日・中戦争始まる
- ・ 1838年（昭和13年）旧国道2号線の舗装が完成し、バスの運行開始
- ・ 1839年（昭和14年）**比丘尼橋以南の笹ヶ瀬川改修工事7年の歳月をかけて完成** 堤防付け替えの大工事により左岸の田中、平田地先に
14万平方メートル余の廃川地が生れた。
- ・ 1841年（昭和16年）第2次世界大戦始まる。
- ・ 1945年（昭和20年）**岡山が6月29日に大空襲を受ける。8月終戦**
- ・ 1947年（昭和22年）**御南中学校開校**（校舎は翌年建築）
- ・ 1952年（昭和27年）**今村・白石村など岡山市に編入合併**
- ・ 1954年（昭和29年）**白石村に上水道を布設**

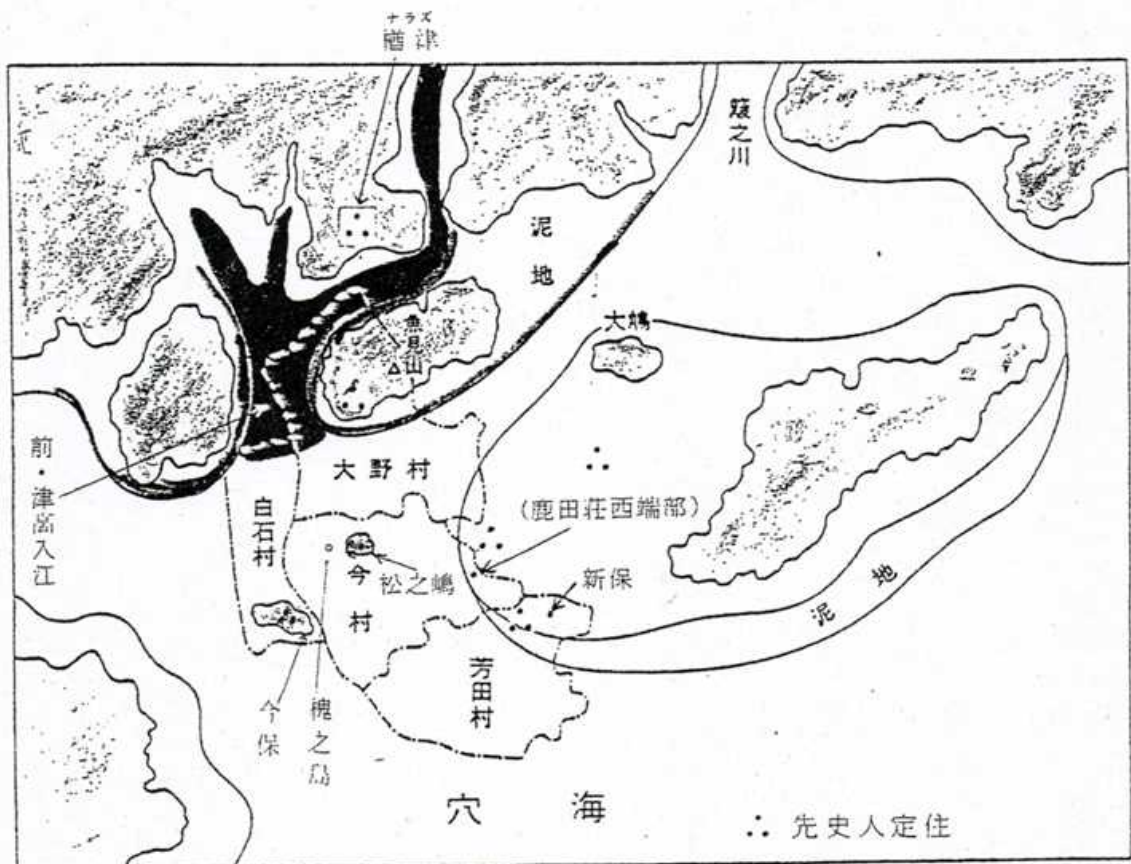
- ・ 1959年（昭和34年）**児島湾の締め切り堤防が完成。**
- ・ 1959年（昭和34年）今、白石小学校を統合して**西小学校開設**
- ・ 1962年（昭和37年）**久米、今保地区に岡山鉄工センターが立地**
- ・ 1968年（昭和43年）中仙道・辰巳の地に**岡山県卸センターが完成**
- ・ 1969年（昭和44年）今村電話局が開設、一挙に電話が増設される
- ・ 1972年（昭和47年）山陽新幹線が岡山まで開通した。
- ・ 1973年（昭和48年）**今土地区画整理組合が事業開始**
- ・ 1973年（ 〃 ）大元小学校が開校
- ・ 1976年（昭和51年）県立西養護学校が開校（後に西支援学校と改称）
- ・ 1987年（昭和62年）**田中野田の土地区画整理事業が開始**（市施工）
- ・ 1989年（平成元年）**今土地区画整理事業の竣工式**
- ・ 1994年（平成6年）**御南小学校が開校**
- ・ 1996年（平成8年）御南西公館開設
- ・ 1998年（平成10年）**御南大橋が完成**
- ・ 2001年（平成13年）白石幼稚園閉園翌年には**御南幼児教育センター開設**
- ・ 2005年（平成17年）**岡山西バイパス(古新田から西長瀬)が開通**
 （両側道地下には電気その他ライフライン用の共同溝を整備）
 この年北長瀬駅が開業。これは岡山市直轄の西部開発に関連して
北長瀬、西長瀬地域の区画整理も併せて実施された。
- ・ 2011年（平成22年）都市化の進行にともなう内水の度々の氾濫解消のため、**田中水門に大型排水ポンプを設置、後に堤防も嵩上げした**

水稲・麦・蘭草の作付け農家の年間日程表 (耕運機・田植え機・稲の刈り取り機やコンバインが無かったころ)

	稲	麦	蘭草	備考
1 月	栽培予定田の土起こし	育成中(麦踏みと肥培管理)	育成中(肥培管理)	畜力または四ツ目鎌
2 月	作物全体について1月とほぼ同じ			
3 月		除草(鎌を用いるが困難作業、肥培管理)	除草1回目 揚水作業	蘭草用除草剤開発 までは這回る手作業
4 月	田植えの事前作業(水田土を人力で 砕いたり、苗代用地準備)		蘭草苗の植え付け(畑)	
5 月	苗代造り	鎌による刈り取り作業と脱穀作業(むしろ干し) 刈り取り後の土起こし	除草2回目	
6 月	肥料散布後田植え(水管理)			
7 月	除草1回目			2・4D除草剤 出来るまでは手作業 蘭草刈り取りは反当 2名の入夫雇用
	蘭草刈り取り後の植え付け		刈り取り作業 天日乾燥・収納	
8 月	除草2回目			
9 月	施肥(止め肥料)		乾燥後の蘭草そぐり(選別)	
10月	米俵編み作業、 蕨制作ほか作業		次年度用蘭草田の畦づくり	
11月	稲刈り・乾燥、 籾摺り・ 出荷	麦の播種用畦づくり後に同時播種	次年度用蘭草苗づくり(蘭苗かぎ 夜半まで夜なべ)	
12月	蘭草植え			

* 蘭草刈り作業の一日行程(ほぼ1週間前後 —— 後植え(水稲)含めて) 『一日に食事を5回という重労働の実態』
朝起床3時・刈り取り染め上げ・前日のものを田や広場へ広げて乾燥・朝食6時・刈り取り昼食10時・小休止後刈り取りを中断して干し返し作業
・短時間の休憩で刈り取り継続・3時お茶漬けという食事・作業後5時ころこびれ間という食事(むすび等)・刈ったり収納したりして夕食8時

● 約2千年前の御南4か村 想像図



篠瀬川改修前後の比較

